

大雪山国立公園表大雪地域登山道関係者による情報交換会議事概要

日時：平成 29 年 12 月 13 日（火）

13:00～16:00

場所：上川総合振興局 3F 講堂

1. 開会

2. 挨拶

■上川自然保護官事務所

- ・今年を振り返ると、昨年度よりは気候が比較的安定していたときが多かったので、皆さんも存分に山で活動して頂けたと思う。一方、山はし尿の散乱や登山道の荒廃の問題が非常に多くあり、荒廃速度も速く、それに見合った活動が促進されることが必要である。そのためには、手続きがしっかりできているという基礎があることが重要だと感じる。手続きがきちんとできていれば、登山道の補修もトイレ問題への対応もしっかり活動できて、色々な人に情報発信することができ、関心のある人を呼び込むことが出来る。皆さんが十分に活動してもらうためにはどのような仕組みが必要なのかを日々考えているが、このあと説明する登山道維持管理作業実施手順マニュアルもそのような思いで発表させていただきたい。
- ・ところで、平成 27 年 11 月に政府全体で地球温暖化の気候変動への適応策について閣議決定がなされ、それを受けて環境省生物多様性戦略推進室が、今後地球温暖化が進み気候が変動した場合、生物多様性分野では何がどう変化し、どのような影響が生じ、それにどう対処していくかを検討することとなった。昨年度から国立環境研究所が請負い、大雪山国立公園を対象にして生物多様性分野における気候変動への適応変動調査を実施しているが、今回は国立環境研究所に来てもらい、調査結果をフィードバックしてもらう。

3. 情報交換

(1) 各団体の平成 29 年度活動内容について

- ・環境省、上川中部森林管理署、上川南部森林管理署、上川総合振興局環境生活課、上川総合振興局南部森林室、公益財団法人日本山岳会北海道支部、旭川勤労者山岳会、美瑛山岳会、富良野山岳会、山岳レクリエーション管理研究会、山のトイレを考える会、(有)風の便り工房、山樂舎 BEAR、北海道山岳整備、大雪山・山守隊、大雪山倶楽部、大雪山国立公園パークボランティア連絡会、大雪山自然学校から、資料に沿って、今年度の活動報告が行われた。
(欠席の東川エコツーリズム推進協議会は内海保護官より代読)。
(出席した富良野市、上川町、美瑛町、旭川山岳会、上川山岳会、大雪地区自然公園指導員連絡協議会、北海道大学大学院農学研究院愛甲哲也氏、株式会社りんゆう観光、旭岳ビジターセンター、層雲峡ビジターセンター、大雪と石狩の自然を守る会、アースウィンドから、事前の資料提供はなかった。)
- ・資料に記載された内容の他に説明がなされた内容は下記のとおり。

■富良野市商工観光課

- ・昨年同様、原始ヶ原湿原にて大雪山・山守隊の協力を得ながら 30 名弱の市民等と植生復元活動を行った。富良野山岳会、環境省にもバックアップをしてもらった。登山道整備は例年通り富良野山岳会に委託して行った。

■上川町産業経済課

- ・例年通り巡視員を配置した他、たまには山へ恩返しの手伝いをした。

■美瑛町総務課

- ・5月末に職員研修で十勝岳避難小屋の屋根と外壁のペンキ塗りを実施。平成28年10月にオープンした望岳台防災シェルターが平成29年11月末で9万5千人の入り込みとなり、多くの方にご利用頂いている。館内は9時半から16時半までは美瑛町観光協会に委託し、管理人が常駐している。それ以外の時間帯は防犯カメラを用いて役場内から館内の様子を見ており、今のところ無断宿泊等はない。

■アースウィンド

- ・リサーチ登山「花ボランティア」調査員が18名活動し、5/25～9/20に169件の調査データが集まった。昨年は170件近いデータだったが、2003年本格的に始動したときは56件しかデータが集まらなかったのも、ここ5年くらいは順調にデータが集まっている。2016年、風衝地において新しいことがわかり、今年は雪渓跡地において植物の特徴が分かった。こうした結果を踏まえて、来年度に向けて計画をしている。

■NPO法人かむい

- ・上川地区登山道維持管理運営協議会の委託を受け黒岳、赤岳、緑岳の巡視活動、黒岳石室バイオトイレの維持管理も委託を受けて行っている。登山道整備については、赤岳第一展望台付近に木柵を入れ、石ころを敷いた。来年も引き続き行いたい。ササ狩りは朝陽山、ニセイカウシュッペ山展望台～大槍、ニペソツ山の幌加温泉コースまで行った。

■大雪山国立公園パークボランティア連絡会

- ・来年度パークボランティア創立30周年を迎えるので、自然解説マニュアルの改訂版を編集。希望者には進呈したいので欲しい方は連絡が欲しい。

■層雲峡ビジターセンター

- ・例年通り、8月に2名のインターンシップを受け入れ、登山道整備などに参加した。山に関する意識調査も行っている。

■旭岳ビジターセンター

- ・登山シーズン6月～10月の間に3700人の記帳があった。

■(有)風の便り工房

- ・登山者への啓蒙活動、ヒグマ情報センターによるヒグマの監視活動を実施した他、沼巡りコースの泥濘箇所15カ所に木道を設置した。

■(株)りんゆう観光

- ・上川町から委託受け、今年度から愛山溪倶楽部の管理をしていくこととなった。台風で道道が止まったり、登山道の倒木などがあったが関係者に速やかに対応して頂いた。感謝したい。昨年、黒岳7合目にカムイ森の道を整備し、今年雪解け後の6月中旬から開通、紅葉時にはたくさんの利用者に来て頂いた。来年度も引き続き多方面に参画していきたい。

■北海道大学愛甲哲也

- ・環境省の各種調査にアドバイス・サポート、山守隊活動のお手伝い等行った。層雲峡ビジターセンターに生徒がインターンとしてお世話になった。環境省が行っている事業の利用状況調査の中で様々なアンケートを行っているが、フォーマットもそれぞれ違うので、この部分だけでも共有すれば色々なデータの使い道がありもったいないと思っている。

■富良野山岳会

- ・創立 90 周年を迎え道内で最も古い山岳会である。北海道山岳連盟加盟の山岳会向けの交流登山大会を富良野西岳、北の峰で行い盛況に終わった。国民森づくり推進功労者としてみどりの日に感謝状を授与頂いた。富良野岳滝コースの流された丸太橋に代わる物として、吊り橋をかけられないか検討中で富良野市役所と現地調査を行っている。

■上富良野十勝岳山岳会

- ・上富良野町の自衛隊に声をかけ、ボランティアで登山道整備を行っている。新しい試みとして上富良野高校の生徒と夏休みにカミホロカメットク避難小屋の清掃なども行い、山を好きなるきっかけ作りをしている。

■上川山岳会

- ・上川山岳会は創立 60 周年を迎えた。たまには山へ恩返し in 黒岳に 5 名参加。

■旭川山岳会

- ・8 月 11 日山の日に北海道警察 6 名と安全登山の啓蒙活動、美瑛富士避難小屋における携帯トイレの清掃パトロール、普段の山行の中で登山道・林道の確認を行った。

(2) 各団体の平成 29 年度活動報告に関する質問、意見交換

■アースウィンド

- ・北海道山岳整備の報告で環境省が設置した看板をヒグマが齧っていると言っていたが、ヒグマはシンナーの臭いが好きで齧る習性があったり、ヒグマが通る道に棒が立っていたら気になって齧って倒そうとすることもあらしい。標識はシンナーの臭いがしないもので加工すれば少しは防げると思う。ガイドとして活動するとき大雪山は湿潤性で崩れやすいので参加者には長靴を勧めたりしているので、今後は長靴の話題を挙げてもらいたい。

■上川自然保護官事務所

- ・環境省が設置した看板にシンナーは使用していないと思うが、今後とも看板について生じる問題やとりうる対応について勉強していきたい。
- ・愛甲先生から頂いた御意見で、環境省が行ったアンケート結果の共有について、今年は 2 つアンケートを行い、1 つは美瑛富士携帯トイレブースの利用状況調査が現在まとめている最中だが、平成 30 年 1 月 27 日に札幌で予定している携帯トイレ普及シンポジウムで結果を発表したい。2 つ目は層雲峡から銀河流星の滝へ至る整備検討についてアンケートを行ったので、次の情報交換会など、機会あるときに結果を発表したい。

4. 話題提供

(1) 国立環境研究所による大雪山国立公園を対象とした生物多様性分野における気候変動への適応策検討調査について

国立環境研究所 小熊氏より資料 14 の説明

(2) 4 - (1) に関する質問、意見交換

■山岳レクリエーション研究会

- ・山岳レクリエーション研究会でも登山道補修に関しては施設整備で小さくやっている場合ではなく、自然再生法による自然再生事業を一部で導入し、モニタリング・将来的な降水量、予測に基づいたモデルを今からやらなければならないと話合っている。

■大雪山国立公園パークボランティア連絡会

- ・大雪山の高山植生を考えると一番に思い付くのは永久凍土の存在で、春先に風衝地に行くときとじわじわ中の氷が溶けている感じはあるが、今回のモニタリングでは不連続の永久凍土が

存在すると言われる大雪山の高山植生に関してそういうことも考慮に入れて研究しているのか？

■国立環境研究所

・不連続の永久凍土は考慮に入れておらず、地質図にある地質を考慮し研究している。

■大雪山自然学校

・地質図にある情報だけで研究したと仰ったが、斜面に対して登山道が走っていたり、登山道の整備の仕方によっても土地の保水量が変わってきたりするが、そういうのも踏まえて抑制する方法はあるか？

■国立環境研究所

・降水量のデータなどをたくさん蓄積していけば、植生の分布図と同じようなアプローチができたり、ここは弱くなっているからこうやった方が良かったといった解析はできるとは思う。ただし、現在の知見では、年間でどれくらい降るかといった程度の将来予測しかできず、短期間の降雨や集中豪雨についての解析はどの程度できるかはわからず、もっとたくさんの知見がないと難しい。

■アースウィンド

・ドローンは利用できないのか？

■上川自然保護官事務所

・ドローンの扱いについては、自然公園法で規制はなく、我々の立場からは他の利用者の迷惑にならないようにとか、ヒグマや動植物に対して影響がないようにしてほしいということを案内している。大雪山では、土地所有者である国有林や道有林に対して入林申請が必要。その他には航空法も調べて頂かないといけない。

■国立環境研究所

・利尻山ではドローンを使って調査をしている。踏み荒らすはないが、ドローン自体がもっと安定化してくれれば非常に良い調査方法だと思う。

■上川自然保護官事務所

・将来予測は不確実な面があるので将来的にどうなるかわからず、必要以上に心配する必要はないが、ここに集まって頂いている皆さんには山の様子や変化をよく見ていただく必要がある。今回国立環境研究所に発表頂いたことから我々が何を学び参考にするかだが、温暖化しても良好な環境として維持される場所について予測があったが、そこについては特に大切な場所だと認識をして、登山道の荒廃がおきそうであればしっかり維持管理をしていったり、補修をしていったり等、優先的に活動場所として選択していくこともできると思う。

■国立環境研究所

・今回は大雪山国立公園で調査をしたが、今後は全国の国立公園にで調査していくことも考えられる。今回の発表を聞いてどのようなことを感じたかアンケートに御記入頂き、返信して頂いて参考にしたい。

(3) 歩道等維持管理作業実施手順マニュアルについて

上川自然保護官事務所より資料 15 の説明

(4) 4 - (3) に関する質問、意見交換

■北海道山岳整備

・イメージ図を出して、作業計画を書いて、それを相談窓口を持って行き、それをいいですよという場合の判断基準が何であるのかが気になる。誰がどのように判断するのか。山を職業にされている方、みんなそうだと思うが自分も含めて、登山道に手を付けるのは自然に手を付けることになるので少しの判断ミスによって、非常に崩れてしまう結果を招く。頑張ればやればやるほど間宮城のように人工的な物になってしまう。3年前に雲の平で行政職員が集まって数十段の段差処理をした。施工直後に見に行ってくれと言われて行ったが、「これでは周りがえぐれ、落下水で洗掘されますよ」と言ったが、実際にそのような状態になってしま

った。施工を判断するのは難しく、判断基準がこのマニュアルの中では見えない。「登山道技術指針を参照とする」と記載があるが、ロープを張ったり、草刈りとか維持管理と登山道整備は分けて考えないといけないと思う。誰が判断し、責任を持つのか心配。

■上川自然保護官事務所

- ・判断基準に相当するものは、一つは登山道整備技術指針であると思うが、それを見てやってくださいというのでは足りないので、本来は計画をこのような場に出して、その中で皆さんの意見を頂いてバランスを取るというのが理想だと思う。それをどういうプロセスでやっていくのかは悩ましいが、理想は6月情報交換会までに、その年のやる作業を出してもらってその場で検証、議論をする。それを伴い、7月以降現地に入るのが良いと思う。しかし、実態問題としてそれまでに計画が間に合うのかすごく悩ましいと感じている。

■山樂舎 BEAR

- ・今の話では6月の情報交換会の段階で147ページ以下の書類を作らなければならない、6月の段階ではまだ登山道は雪の下で、雪が溶けて登山道が見えてきて、すぐに直さないといけない部分が出てくるので、そのようなスケジュールでは間に合わない。また、集中豪雨などで登山道がえぐれた場合、すぐに直さないといけないことも過去にはあったが、これだと対応しにくい。そういったタイミングはどう考えているのか？

■上川自然保護官事務所

- ・緊急対応は出てくると思うし、その年の作業をその年に見て考えて施工をすることになると、6月の情報交換会だけを検討する機会とすることは難しい。また、今日来て頂いているこのメンバー全員が6月以降も何度も集まるのは難しいので、コアメンバーを作ってその中の意見を聞いて検証する、機会があるたびに集まって検証できるようにする、というのも一つの手だと、今思った。
- ・岡崎さんが仰るように自然の変化をしっかりと見ていくのは大切で、なおざりには出来ない。現実問題としてこのメンバーがいつも集まれるわけではない。そこを両立させるためにはどうすればいいか悩みどころだと思う。

■アースウィンド

- ・登山道管理水準検討委員会は2003年ころから開かれた。北大の渡辺悌二先生や愛甲先生もちろん、様々な先生が委員となり、登山道を維持するためにどうすればいいかを検討してきた。私もその中の一人の委員として関わったが、例えば、登山道が複線化している五色ヶ原、そしてヒサゴ沼避難小屋へ下りるどろどろの木階段、それらが工事や工法の誤りでそのようになってしまったと申し上げたことがある。そのときに、参加されていた渡辺先生が、登山者が同じところを歩くから同じ場所の浸食が進むのだと仰られた。私は花が潰されたくない一本の道をみんなが正しく歩けばいいと思っていたが、そのときの意見は目から鱗で、先生方によっても一人一人意見が違う。
- ・たまたまNPOとして山岳環境保全で色々な会社と取引があり、木の階段を作った実績のある有名企業の担当者呼んで、トムラウシの7合目くらいの小川が流れている土が剥がれてツルツルになっているところをどうやって直すか聞いてみたら、階段を作ります、と言われた。階段を作って杭を打ったらその周りの土が崩れると教えてあげた。その人は自然環境保全の専門家ではあったが正しい工法は知らなかった。誰も正しい工法を知らないのが実情。
- ・この情報交換会に集まっている人たちは現場を見てよく知っていて、どうやって直せばいいのかも自分なりのアイディアを持っている。その当時は、福留脩文さんが妥当な意見を持っていると思ったので、そういう識者がアドバイザー的な立場で検討にご参加頂くのは叶わないのか？

■上川自然保護官事務所

- ・現在の情報交換会のメンバー以外の別のところから、別の方に参加して頂くのは予算との兼ね合いもあるが、提出された計画を検討するメンバーをどうしていくかは考える余地があるので、どのような体制で計画を検討していくかはよく考えていきたい。

■北海道大学愛甲哲也

- ・名前がよくない。「歩道維持管理実施作業手順マニュアル」と長いし、維持管理作業のことが書かれていると思うが、単純に言えば歩道の維持管理作業を実施するときの事務手続き要領みたいなもので、そこがごっちゃになっていると思う。せつかく我々で登山道管理水準も作り直したし、整備技術指針という立派なものも作ったが、確か整備技術指針の中にも作業をした結果を報告するためのフォーマットも入れていたはずで、それとの違いが何か分からない。フローも見ると「整備技術指針を参照」と書かれているが、そもそも大雪山で登山道整備をやるときは整備技術指針に従わなければいけないと我々関係機関を含めて共有して作ったはずでその考えはどこに行ったのかと思う。あれだけ議論して技術指針を作成し、10年経って使えなくなって、また議論をやり直して改訂版を作成したものがこんな状態になっているのはどうしたものかと正直思う。これはこれで実際にやる方の事務手続きと事業執行者とのやりとりがスムーズに行くように整理された物で意図はわかるし、必要な物だと思うが、その辺と技術指針の使い分けをしっかりと整理して分けて頂いた方がわかりやすいし使い易いものになる良いと思う。現行で行われているササ刈りや整備が本当に技術指針・管理水準に合っているのかというのは、精査されていないし、モニタリングも全然していない。結局、前回やった失敗と同じ失敗を繰り返し始めているのではないか。

■上川自然保護官事務所

- ・このマニュアルは、長年かけて作った技術指針をようやく実行するためのものだと思っている。維持管理作業を行う者が、実際に技術指針に従って計画を立ててその内容が技術指針に沿ったものかみんなで揉んでいく必要がある。現場は千差万様であるため、品質を確保するためには、みんなで計画を見ながら揉んでいかないといけないと思う。そのような位置付けがクリアになるようにしていきたい。
- ・マニュアルに関しては実際に実施することを想定した場合、ここはおかしいとか、実際にはやりにくい御意見があると思う。皆さんからも是非メールで良いので御意見を頂きたい。

(6) 携帯トイレの普及について

上川自然保護官事務所より資料16の説明

(5) 4 - (6)に関する質問、意見交換

■アースウィンド

- ・携帯トイレを普及させるためにずいぶん話をしている。このトイレの活動が始まってから17年くらい言い続けているが、配布をして受け取ってはくれるようになったが、溜め込んでいて、実際に使っているのは少ない。配布した数と回収した数を集計していけば、もっと普及する糸口になると思う。

■上川自然保護官事務所

- ・私としては、携帯トイレは行政が配布するものではなく、登山用品店で買って、登山をする際には必要なものとして、普通に装備に加えてもらう流れにしたい。

■北海道山岳整備

- ・このような会議もあり、6月までに色々なことが決まって、全てがうまくいったと考えて実際に美瑛富士に携帯トイレブースが立つのは最短でいつになるのか？

■上川自然保護官事務所

- ・整備にあたっては、内部の事情として各所を説得しなければならない状態もあり、いつとは申し上げられないが、私としては早く調整を済ませて早く設置したいと思っている。

5. 閉会

■上川自然保護官事務所

- ・マニュアルの件に関しては実際に運用していくことを考えた場合には課題も多くありそうなので、引き続き御意見お寄せ頂きたい。